

公表資料 2024年12月26日(木) 臨時理事会 資料 議 会 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会	第1号議案 職員就業規程改定及び非常勤職員就業規程策定の件
職員就業規程改定及び非常勤職員就業規程策定について 本年9月13日開催の臨時理事会（第1号議案）において承認いただいた「会期中組織への移行の件」に伴い、博覧会開催期間中の職員の勤務体制について規定整備を行う必要があります。このため、 1 交替制勤務や宿日直勤務を導入するための「職員就業規程」の一部改定 2 会期中の非常勤職員を対象とした「非常勤職員就業規程」の策定 について、理事会の承認を求めるものです。 議1-1	1. 職員就業規程改定について 改定の趣旨 会期中の勤務体制については、ほとんどの部署において勤務時間を早番・遅番のシフト制とし、4勤務日2休日の勤務パターンとすることを予定している。この勤務体制を「会期中等の勤務体制実施要項」に定めることとするが、それに伴い、職員就業規程の一部条文を改定する。 また、夜間の緊急事態への対応のため一部部署において、宿直勤務が予定されていることから、根拠規定を追加する。 改定のポイント ◆会期中等の勤務時間・休憩時間・休日について、別規程を定める ◆宿日直勤務について規定化し、具体的内容は別規程で定める ◆非常勤職員の定義を明確化し、非常勤職員就業規程を別途定める 議1-2
2. 非常勤職員就業規程策定について 策定の趣旨 博覧会会場には、来場者等に怪我人や病人が発生した場合の対策として複数の診療所及び応急手当所を設けることとしているが、これらの診療所等には協会が雇用する医師や看護師（以下「医療スタッフ」という）に従事させる予定としており、これら医療スタッフのような非常勤職員に適用される非常勤職員就業規程を新規に策定する。 策定のポイント ◆主な適用者として危機管理局所属医療スタッフを想定 ◆非常勤職員を職員の所定労働時間より短い者と定義 ◆勤務時間は、具体的には個別の契約による ◆休日は、具体的には個別の契約による ◆年休は、採用2か月後から段階的に付与 ◆特別休暇・病気休暇は職員と同等の休暇を取得可能とするが無給 ◆心身の故障の場合は休職制度の適用あり ◆給与は、日給又は時間給とし月末締め翌月17日（もしくは25日）支払い 議1-3	【参考】会期中等の勤務体制実施要項について 策定のポイント ◆適用開始日は2025年4月1日 ※部署都合により3月1日からの可能性あり ◆原則の勤務パターンを【交替勤務】として4パターン明示 ①7:00～15:30 ②8:00～16:30 ③13:30～22:00 ④14:00～22:30 ※個人事情、交通事情、出向元事情、その他業務都合により例外あり ◆勤務時間帯ごとに休憩時間を1時間設定 ◆勤務時間・休憩時間は少なくとも前月末日までに職員に通知 ◆休日は、4日連続勤務ののち連続2日間とする 議1-4
議1-5	議1-6

大阪・関西万博安全確保事業の変更について

経済産業省からの受託契約「令和5年度補正大阪・関西万博安全確保事業（現契約額は約199億円）」について、約55億円の変更増契約をしようとするものであり、これを理事会に諮問するもの。

項目	内容		
契約案件名	「令和5年度補正大阪・関西万博安全確保事業」の一部変更について		
案件概要	会場内の安全確保については引き続き高い水準が求められている中で、イベント増に伴うVIP来訪や関係車両の増加、公式参加者の出展形態の変更に伴う協会管理施設の増加が判明したことから、改めて必要な対策として今回変更を行うもの。		
契約相手方	経済産業省	事業実施期間	契約締結日（2024年1月） ～2026年1月
現契約額	約199億円	変更増金額	約55億円
スケジュール	理事会承認後、速やかに契約締結予定		

議3-2_32

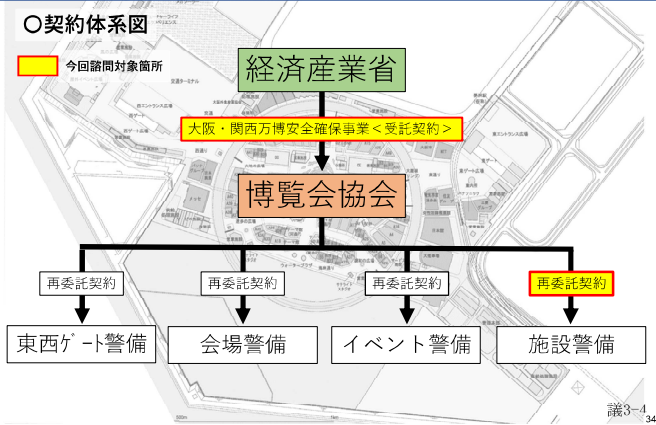
大阪・関西万博安全確保事業の変更について

実際の警備業務にあたっては民間警備会社に再委託して実施するところ、今般再委託契約のうち「施設警備実施業務（現契約額は約43億円）」について変更増契約をしようとするものであり、これを理事会に諮問するもの。

項目	内容		
契約案件名	「2025年日本国際博覧会 施設警備実施業務」に関する再委託契約の一部変更について		
案件概要	万博会場南東部に新たに車両ゲート・関係者ゲートを増設すること等から、これに必要なとなる警備体制を構築するべく所要の変更を行うもの。		
契約相手方	総合警備保障株式会社	事業実施期間	契約締結日（2024年2月） ～2025年11月
現契約額	約43億円（23.6理事会承認済）	変更増金額	（非公表）
スケジュール	2025年1月に変更契約締結予定		

議3-3_33

大阪・関西万博安全確保事業の変更について



議3-4_34

途上国出展支援事業の受託契約（経産省）及び共同館（タイプC）展示・運営業務の発注について

① 途上国出展支援事業の受託契約（経産省）

2025年度に実施する途上国支援にかかる経済産業省と協会との受託契約の締結について、理事会の承認を求める。

■概要

◆事業内容：

特別規則12号第14条（※）に基づき、途上国支援対象国約90か国に対して、パビリオン及び展示スペースの展示内装（保守・撤去）とそのパビリオンの運営業務、什器や通信設備の貸与、公共料金や保険料の支払い、展示物の輸送（復航）、各国スタッフの宿舍の提供及びフライトの手配を実施する。

※特別規則12号 第14条 途上国支援
開催者は、国、国際機関、民間出展者の参加条件に関する特別規則第2号に基づき、特定の開発途上国に対し、支援の手法並びに適用の系統及び基準を詳述した支援プログラムに従った財政的支援を提供する。

◆契約時期：

令和6年度補正予算成立日以降
～2026年3月31日（※）
※経済産業省と調整中

◆契約方法：

経済産業省との特命随意契約

議4-1_36

途上国出展支援事業の受託契約（経産省）及び共同館（タイプC）展示・運営業務の発注について

② 共同館（タイプC）展示・運営業務の発注

途上国支援の中で実施する「共同館（タイプC）の展示・運営」にかかる業務の発注について、理事会の承認を求める。

項目	内容
案件名称	途上国支援共同館（タイプC）の展示・運営にかかる業務の発注について
案件概要	共同館（タイプC）3館の展示・運営業務
業務内容	会期中の運営（来場者対応、警備・清掃、危機管理・緊急時対応等）及び展示造作物の保守及び会期後の撤去
事業者選定の方式 及び スケジュール	2024年度にプロポーザル方式（公募型企画提案方式）で選定された共同館展示・運営準備業務の受託事業者との特命随意契約 理事会承認後、経産省との受託契約締結後に契約締結予定
契約期間	経産省との受託契約締結後～2026年3月末

議4-2_37

現在のチケット販売状況

- 現在のチケット販売（売上げ）は、総計約744万枚（12月18日時点）。
- 第2期PR重点期間であった9月以降、**主要イベントの発表、超早割一日券の駆け込み需要、超早割特別抽選**などにより、**チケット販売に手ごたえ**が感じられた状況。
- 大口企業向けを中心とした直接販売は順調に積み上がってきたが10月中旬以降は落ち着き、**販売の中心は公式Web販売と旅行会社等委託販売のチャネルに徐々にシフト**。旅行会社ではバック商品の販売も開始。
- 一般のチケット購入はまだ限定的**。現時点では、大阪を始めとした関西圏、年齢層比較的高め、万博への期待値が高い層の購買が中心。

販売チャネル	販売目標（うち前売販売）	現状（12/18）
総数	2300万枚（1400万枚）	約744万枚
直接販売		約613万枚
公式web販売		約47万枚
旅行会社等委託販売		約84万枚

※コンビニ等での引換券の販売は、現段階では総計5千枚程度。ネットが得意ではない方やプレゼント需要といったWeb販売の補完との位置付けであり、予約なしでの来場用途が主流であれば、**前売りよりも来場直前から需要が高まるもの**と想定される。

報1-1_39

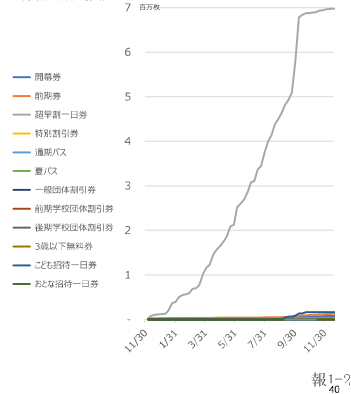
報告事項1
チケットの販売状況と機運醸成についての件

（参考）券種ごとのチケット販売状況

チケット販売枚数（12/18）7,443,561枚

開幕券	82,519枚
前期券	127,558枚
一日券(超早割・早割)	6,982,509枚
特別割引券	17,965枚
通期パス	24,353枚
夏パス	23,896枚
3歳以下無料券	13,913枚
前期学校団体割引券	253枚
後期学校団体割引券	125枚
こども招待一日券	170,166枚
おとな招待一日券	304枚

券種別販売推移



報1-2
40

第2期PR重点期間（9～11月）の主な取組

<広報・プロモーション>

- 開幕日をはじめとした主要イベントやイベントカレンダーの公表
- 新ポスター・サインージ・テレビCMやパンフレットでの発信
- SNS等での積極発信
- 開幕半年前となる10/13にあわせて各地でのイベント実施
- 11月から各地でキャラバン開始

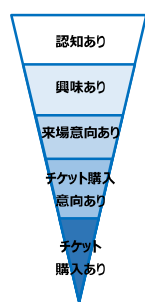
<チケット営業等>

- 「超早割一日券」の10/6販売終了と超早割特別抽選
- 大阪府市がチケット購入・来場日時予約等の支援を行うサポートデスク設置
- 10/13旅行代理店でのチケット・引換券、旅行商品販売開始
- 10/13コンビニでの引換券販売開始
- 10/13来場日時予約の開始
- インバウンド向け販売チャネル整備（海外販売事業者増加、中国Wechatアプリ開発）
- 旅行会社の商品造成担当者向けの説明会実施 など



報1-3
41

機運醸成とチケット販売の課題



- 万博を認知している層がチケットを買わない理由は、「万博の内容・魅力・楽しみ方が伝わっていない」ことに加えて、「開催地が遠い」、「費用」、「混雑や暑さなどが心配」が4大要因
- 来場意向ある層がチケット購入に踏み切らない理由は、上記の4大要因と並んで、「まだ早い（タイミング）」も大きな要因
- 開幕まで約4ヶ月あるため、多くのユーザーにとって、まだチケット購入を本格的に考える時期になっていない（これは一般的な傾向）
- 今後増えていく来場意向ある層やチケット購入層にとっては、チケット購入・予約方法をできるだけわかりやすいものとすることも不断に必要
- このため、ユーザー層ごとのボトルネックに対して、効果的な訴求ポイントに、地域・年代・関心等でより詳細に分析して、チケット購入が本格的に検討される開幕直前期のタイミングで、チケット購入の喚起に効果的なコミュニケーション、チケット販売戦略、情報提供などが必要

報1-4
42

今後の対応方針と取組み

来場の動機付け

会期前半への来場誘導

関西圏のリピーター拡大

- （1）コミュニケーション戦略
- （2）チケット販売・営業戦略
- （3）ユーザーフレンドリーな情報提供
- （4）会場でのユーザー体験の向上

報1-5
43

対応方針の考え方

1. 来場の動機付け

- 来年1月13日からはパビリオン・イベントの予約抽選申込（2月13日抽選）が始まり、価格の安い前売り券の販売期限が迫る中で、開幕への機運の高まりに合わせて、チケット販売を拡大していく。
- 開幕直前から本格化するチケット購入期に向けて、ユーザーのボトルネックを解消しつつ、興味関心や来場意向を高めるための情報発信の量と質を、第三者からの拡散も含めて強化することで来場を促す。

2. 会期前半への来場誘導

- 夢洲の会場キャバ、万博共通の会期後半の混雑を踏まえ、来場者数の平準化が重要。
- 混雑が少なく、気候も快適な前期（特に4・5月）のユーザー獲得に注力。
- ユーザー満足度を向上させることで、早期来場者による高評価を全国に波及させて、更なる新規ユーザーやリピーターを呼び込む好循環を生み出す。

3. 関西圏のリピーター拡大

- 大阪・関西では万博の露出が多く、他地域に比べて関心も高い状況。また、近場のため交通アクセス・宿泊への懸念も小さく、早期・平日・複数回の来場が比較的容易。
- 大阪・関西のユーザーの早期来場とリピーターを拡大させ、ヘビーユーザー層を形成。

報1-6
44

具体的な取組み①

（1）コミュニケーション戦略

<年末年始、100日前（1月3日）>

- ・万博の意義が伝わっていない層に、なぜ万博を開催するのかを改めて訴求する「ステートメント」を発信
- ・正月のメディア特番での会場露出、100日前に合わせたインターネット広告や第三者からのSNS発信など、「万博イヤー」を契機とした興味喚起

<2月後半～開幕時>

- ・新たなテレビCMや交通機関・街中でのサインージ等により認知・興味喚起の基軸づくり
- ・協会からの一方的な発信だけではなく、対話形式での第三者の声を通じた発信などで、「幅広い膨大なコンテンツで多くの人が楽しめる」・「世界各国の旅行を疑似体験できる」といった来場意向の転換に効果的なメッセージを訴求
- ・年齢別・地域別だけでなく、関心事項などでターゲットを細分化した上で、コンテンツ情報・体験価値、チケット購入方法などを、マス向けテレビCM、きめ細かく発信可能なインターネット・SNSなどメディアの特性を踏まえた最適な媒体で発信
- ・公式Web・SNSといったオウンドメディアだけでなく、TV番組や雑誌等での取り上げ、インフルエンサーからの発信など、効果的な情報の拡散も狙う など

報1-7
45

具体的な取組み②

（2）チケット販売・営業戦略

- 全般
 - ・混雑が少なく、気候も快適な開幕前期に利用できる安価な開幕券・前期券の積極訴求
 - ・USJ等と連携したプロモーションにより、万博への関心が薄い層や万博単体ではコストが悪いと感じる遠距離層などの新規顧客を開拓
 - ・早期来場者限定で通期パス購入のインセンティブを付与することにより、まず早期に来てもらい、良ければリピーターになってもらうキャンペーンを実施
- 旅行会社
 - ・会期前期への送客へのインセンティブ設計
 - ・教育旅行のうち校外学習のバス乗降場利用の優先期間を4・5・7月に設定
- 直接販売
 - ・大口チケット購入済企業等に対して早期来場を働きかけ
 - ・出展団体やイベント実施団体などへの働きかけ
- コンビニ「引換券」
 - ・店内POSレジやレジ上のデジタルサインージを含め、店内PRの実施を引き続き依頼中
- インバウンド向け販売
 - ・日本国外でのチケット販売事業者との契約増加（12/23時点公表22社）
 - ・Web販売が難しい中国ではWechatミニプログラムを整備して11/27販売チャネル確保

報1-8
46

具体的な取組み③

（3）ユーザーフレンドリーな情報提供

- 公式Web・チケットサイト・Visitorsアプリ等での、パビリオン・イベント情報や楽しみ方に関する情報の充実、チケット購入や来場日時予約のユーザー導線の見せ方の改善
- 来場者向け基礎情報（パビリオン・イベントの展示形式や予約の必要性有無など）、予約（空きあり・満員）状況などの発信 など

（4）会場でのユーザー体験の向上

- 会場内の混雑状況や、パビリオン・イベント予約の空き情報などのタイムリーな発信
- アンケート等を通じたユーザー体験の改善 など

報1-9
47

インバウンド向けの取組み

【前 提】

来場者想定2820万人のうち、インバウンドは350万人を見込み
(参考) 日本へのインバウンド上位10国・地域
韓国、台湾、中国、香港、米国、タイ、フィリピン、豪州、シンガポール

【主要な取組み】

- 1) 協会公式サイトが多言語対応に加えて、委託販売を実施する海外旅行会社・チケット会社の販売チャネルを拡充中
- 2) 多言語でのパンフレット、ホームページ自動翻訳機能、SNS発信などのツール整備
- 3) 主要な旅行博覧会、主要な日本関連イベントをはじめとする海外等での万博PR
- 4) 海外メディアとの連携

報1-10
48

運営費の執行状況について

運営費の執行状況について

10億円以上の新規契約案件一覧（2024年10月～2024年11月分）			
（単位：円）			
案件名	案件概要	契約日	契約額（税込み）
	該当なし		

10億円以上の新規契約案件一覧 (2024年10月～ 2024年11月分)

案件名	案件概要	契約日	契約額(税込み)
該当なし			

該当なし

【開催報告】運営費執行管理会議第4回について

- 日時：令和6年11月6日（水） 11：00～11：45
- 場所：Teamsオンライン
- 議事：

- ・運営費の執行状況について、2024年9月末までの契約実績額及び今後の予定として直近の発注予定額（10～12月分）を報告した。
- ・開幕に向けた協会内の予算管理体制の変更について、説明を行った。
- ・入場券の販売状況及びチケットの販売促進のための具体的な取り組みについて報告を行った。
- ・委員からの主なご意見は以下のとおり。
 - * コンビニ購入で引換券はかなり容易に購入できるようになった印象。店舗内にも広報物を設置できればよい。
 - * インバンド客に向けて、旅中でもチケットがスムーズに購入できる仕組みを整えてほしい。
 - * IDの地域、年齢などのリアルデータを活用して、関西圏以外でも効果的なプロモーションを展開すべき。
 - * ルールを厳格にしすぎるあまり硬直的な予算執行体制とならないようにして欲しい。
 - * 引き続き支出面だけでなく収入面を含めた予算管理をお願いしたい。

報2-5
54

【開催報告】運営費執行管理会議第4回について

- 日時：令和6年11月6日（水） 11：00～11：45
- 場所：Teamsオンライン
- 議事：
 - ・運営費の執行状況について、2024年9月末までの契約実績額及び今後の予定として直近の発注予定額（10～12月分）を報告した。
 - ・開閉に向けた協会内の予算管理体制の変更について、説明を行った。
 - ・入場券の販売状況及びチケットの販売促進のための具体的な取り組みについて報告を行った。
 - ・委員からの主なご意見は以下のとおり。
 - * コンビニ購入で引換ははかり容易に購入できるようになった印象。店舗内にも広報物を設置できればよい。
 - * インバウンド客に向けて、旅中でもチケットがスムーズに購入できる仕組みを整えてほしい。
 - * IDの地域、年齢などのリアルデータを活用して、関西圏以外でも効果的なプロモーションを展開すべき。
 - * ルールを厳格にしすぎずあまり硬直的な予算管理体制とならないようにしたい。
 - * 引き続き支出面だけでなく収入面を含めた予算管理をお願いしたい。

運営費の執行状況について（2024年11月末）

執行要旨		契約締結(2014年3月現在)		今年度の売上高(百万円)		今年度の利益(百万円)	連結比率
		商標	商標所有権の権利者の住所	商標使用 (2014年3月現在)	商標使用売上高(百万円) (2014年3月現在)		
特許権取得	296	特許権取得(特許権) 特許権取得(特許権)					

運営費執行管理会議資料
(2024年11月6日開催済分)

運営費執行管理会議資料
(2024年11月6日開催済分)

会場建設費の執行状況について

博覧会協会における会場建設費の執行額の精査結果について

- 2023年11月、会場建設費（工事費2,220億円、予備費130億円）総額2,350億円が必要と算定。
- 今般、2,350億円のうち①当時予見できなかった事象への対応として「約87億円」が新たに見込まれる一方、執行にあたっては、物価上昇緩和、コスト削減、現地再精査等の変更を考慮すると、②隙間は現状「約25億円」あることから、現時点での予備費執行は「約62億円」が見込まれ、これを執行しようとするもの。
- なお、総額2,350億円に変更はなく、予備費130億円の範囲内で対応するもの。

（2023年10月時点）
（予算）最大2,350億円

【予備費】130億円
【工事】2,220億円
・大工区
・主要施設
・土木工区
・インフラ設備
・交通施設
・委託関係 など

① 当時予見できなかった事象への対応 +87億円
・公式参加国出展形態変更への対応 +57億円
・メタンガス対策（ハード面の安全対策） +30億円
P3.4参照
② 現時点の隙間 ▲25億円
・物価上昇の緩和 ▲65億円
・コスト縮小・削減 ▲51億円
・現地再精査・各種進捗等変更 +91億円
P5.6参照
いずれも11月末時点の算定であり、今後の執行状況によって変動も有り得る。

（2024年11月時点）
（予算）最大2,350億円

予備費執行となり得るのは「約87億円」
隙間が「約25億円」のため「約62億円」が見込まれる
今後の執行によって変動も有り得る

2024年12月2日 <2025年大阪・関西万博推進本部>第12回会議 報告資料

報2-15 64

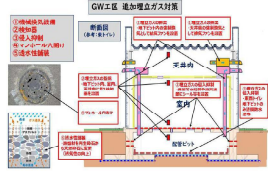
①当時予見できなかった事象への対応2（約87億円執行）

- メタンガス対策（ハード面の安全対策※） 約30億円

GW工区は約24億円、PW工区は約6億円の合計 約30億円 【今回、必要額を精査】

※【24.9理事会説明内容】

- GW工区の施設は、2024年6月24日に公表した「会期中の安全対策」に基づき、①機械換気設備、②検知器、③侵入抑制、④マンホール開け、⑤透水性舗装を、基本として、施設特性に応じた対策を実施。
- PW工区は、低濃度ガスが検知された地下鉄工事上部エリア、グリーンランド工区近接エリアで、ガス濃度測定を重点的に実施し、その結果を踏まえて必要な対策を実施。
- 所要費用 会場建設費（主に設備対応） 約3.2億円



2024年12月2日 <2025年大阪・関西万博推進本部>第12回会議 報告資料

報2-17 66

②コスト縮小・削減 及び現地再精査・各種進捗等変更まとめ（▲25億円）

物価上昇緩和（再掲：P5参照）	▲65.0億円
入札等執行減（23年10月～24年9月）	▲14.6億円
発注等の見直し（協賛含む）	▲24.7億円
セキュリティ資機材の必要性の見直し	▲16.4億円
会場内警備カメラ等の発注方法見直し	▲5.1億円
若手建築家施設の様式や構造等の仕様見直し	▲1.9億円
若手建築家施設等の協賛獲得	▲1.4億円
施工時の仕様等見直し	▲11.8億円
交通ターミナルの施工内容・部材等見直し	▲4.9億円
GW工区の施設の構造や設備等の仕様見直し	▲3.4億円
迎賓館の内装等仕様見直し	▲1.6億円
若手建築家施設の規模や内装等の仕様見直し	▲1.2億円
備置インフラ設備の部材等の見直し	▲0.7億円

コスト縮小・削減：▲116億円

現地再精査等による数量の変更	40.4億円
大工区・主要施設	
・諸般の事務仕様の変更	23.9億円
・工事用仮設足場や仮設道路設備等の追加	
・原状復旧のための解体除去工事等	
交通施設	
・風景・消防施設に伴う安全対策措置	12.1億円
基礎整備（土木）・インフラ整備	
・インフラ新築低價	4.4億円
公式参加国の準備進捗等に伴う変更	50.8億円
公式参加国の工事進捗等に伴う変更	30.3億円
来場者輸送、施設設備等の具体化に伴う変更	17.0億円
協賛調整等による追加対応	3.5億円

現地再精査・各種進捗等変更：±91億円（一増、一減を相殺含む）

差引増減「▲25億円」

2024年12月2日 <2025年大阪・関西万博推進本部>第12回会議 報告資料

報2-19 68

会場建設費の執行状況について（2024年10月末時点）

執行項目	金額	執行内容		執行予定額
		主な内容	小計	
大工区	1,142			
PW北東工区	535	・大屋根（300）	235	1,376
PW南東工区	277	・P・C・R・C		
PW西工区	311	・仮設道路、仮設足場等の整備		
GW工区	165	・メタン対策		
若手建築家施設	35	・附属設備		
若手建築家施設等整備	13	・仮設トイレ、仮設トイレ等		
会場施設（仮設トイレ等）	16			
土木工区	277			
土木工区	31	・仮設トイレ	18	256
土木工区	47	・仮設トイレ		
土木工区	36	・仮設トイレ		
土木工区	55	・仮設トイレ		
土木工区	45	・仮設トイレ		
土木工区	110	・仮設トイレ	▲1	109
インフラ設備	237	・仮設トイレ	20	257
交通施設	152	・仮設トイレ	27	175
環境整備、委託関係	58	・仮設トイレ	6	64
合計	1,976		306	2,220

■2,220億円の執行率： 87.5%（（1,976÷2,220）×100）（※1）（※2）（※3）（※4）（※5）（※6）（※7）（※8）（※9）（※10）（※11）（※12）（※13）（※14）（※15）（※16）（※17）（※18）（※19）（※20）（※21）（※22）（※23）（※24）（※25）（※26）（※27）（※28）（※29）（※30）（※31）（※32）（※33）（※34）（※35）（※36）（※37）（※38）（※39）（※40）（※41）（※42）（※43）（※44）（※45）（※46）（※47）（※48）（※49）（※50）（※51）（※52）（※53）（※54）（※55）（※56）（※57）（※58）（※59）（※60）（※61）（※62）（※63）（※64）（※65）（※66）（※67）（※68）（※69）（※70）（※71）（※72）（※73）（※74）（※75）（※76）（※77）（※78）（※79）（※80）（※81）（※82）（※83）（※84）（※85）（※86）（※87）（※88）（※89）（※90）（※91）（※92）（※93）（※94）（※95）（※96）（※97）（※98）（※99）（※100）

2024年12月2日 <2025年大阪・関西万博推進本部>第12回会議 報告資料

報2-21 70

①当時予見できなかった事象への対応1（約87億円執行）

- 公式参加国出展形態変更への対応 約57億円

- タイプX 9棟の有効活用 約32億円 【24.9理事会承認済】
- 空地・空区画における休憩所等※の整備 約25億円 【今回、必要額を精査】

※【24.9理事会説明内容】

公式参加者の参加形態に応じて新たに生じた区画については、人工芝舗装のうえ熱対策としての簡易テントや冷風設備を設置するなど、子ども向け設備・遊び場も加味した休憩所（簡易施設含む）や来場者用サービス・展示施設の整備を進めていく。整備の全体像は未確定であるものの、整備費としては約20～30億円（精査中）を考慮しており、これを会場建設費で負担する。



区画	面積	休憩所（人工芝整備、テント、ベンチ、テーブル等）	協会での整備予定・活用内容
空地1	約900㎡	休憩所（人工芝整備、テント、ベンチ、テーブル等）	
空地2	約900㎡	休憩所（人工芝整備、テント、ベンチ、テーブル等）	
空地3	約3500㎡	休憩所（人工芝整備、テント、ベンチ、テーブル、駐車場等）	
空地4	約900㎡	休憩所及び付帯施設（人工芝整備、テント、ベンチ、テーブル、簡易施設等）	
空地5	約400㎡	物産施設（アスファルト舗装、南側芝場等）	
空区画（複数）	約300㎡/区画	未来技術展示体験エリア（ロボット、空飛ぶクルマで体験） 来場者用サービス施設エリア（免税店、P・C・R・C等当日予約所） ミッドナイト展示エリア（ナイトスポット・展示・事務用等） 会場スタッフ用体験エリア（簡易トイレ等）	<24.11末時点の計画であり、今後変更の可能性あり>

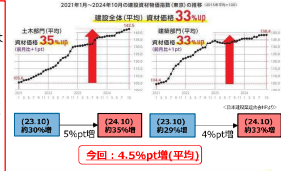
2024年12月2日 <2025年大阪・関西万博推進本部>第12回会議 報告資料

報2-16 65

②物価上昇の緩和について（▲65億円）

①23年10月時点（予算増額時）

日本建設連合会の資料（資材：21.1～23.2年上昇推移・労務単価：2年の年上昇推移）により、資材費「13.4%/年」労務費「4.8%/年」が、当初1,850円算定時（20.12）から継続することを前提に増額分を精算したものと、



②24年10月時点（執行額精査時）

同資料から23.10～24.10の上昇推移比較をみると、資材費は「4.5%pt/年増」となっており上昇傾向にある。また、労務費は23.10時点に比べて上昇幅は拡大している。上記を踏まえ、資材費は「4.5%/年」、労務費「5.9%/年」として将来の物価影響額を試算するため、24.10以降の工事費を補正精算したものと、

（※23.10～24.10については、入札率執行率等で反映されている（仮））

③補正結果

この結果、①527億円に対し②462億円となり、差額「▲65億円」の補正額を算定。

2024年12月2日 <2025年大阪・関西万博推進本部>第12回会議 報告資料

報2-18 67

今後の予備費について（残予算：68億円）

- 予備費については、「全体工事費2,220億円×予備費率6%≒130億円」で計上。
- 130億円のうち62億円を使った場合、残予算「68億円」での対応の可否を検証。

検証内容

- 予備費については、会場建設における予期せぬ事態（風水害等自然災害時の対応や想定を大幅に超えた価格上昇など）が発生した場合にも、即時対応できるよう財源を確保したものと、
- 足元の万博会場のハード整備状況については、全体の工事進捗率は約7割を超えており、会場建設費の契約率も約9割となっていることから、ピークアウトしている状況である。
- 会場建設費増額時（2023.11）には、整備事業終了までを見据えて予備費130億円を計上していたところ、以後1年が経過していることもあり、建設事業としての不確定要素（リスク）は一定低減していると考えられる。
- 以上のことから、今後の不測事態への対応として予備費68億円とするのは、専門事業者の意見を踏まえて必要十分と考えており、会場建設費2,350億円の範囲内で対応していく。

2024年12月2日 <2025年大阪・関西万博推進本部>第12回会議 報告資料

報2-20 69

協会発注施設の工事進捗状況

○大工区の進捗状況

R6.11末現在

名称	進捗率
大工区（PW3工区及びGW工区）	86%
PW北東工区（大屋根650m、Bパビリオン2棟、Cパビリオン1棟ほか）	92%
PW南東工区（大屋根740m、Bパビリオン1棟ほか）	83%
PW西工区（大屋根730m、Bパビリオン2棟、Cパビリオン3棟ほか）	95%
GW工区（屋外イベント広場、西ゲートほか）	75%
※大屋根リング（木造建築部分が完成 8/21）	100%

※進捗率は、「工事費用（出来高）」／総工事費用で算出。
ただし、大屋根リングは、「建て方着工長／リング長」で算出。

2024年12月2日 <2025年大阪・関西万博推進本部>第12回会議 報告資料

報2-22 71

(参考) 協会発注施設の工事進捗状況

〇個別の施設の進捗状況

R6.11末現在

	施設名称	進捗状況	工事着手
催事施設	大催事場	鉄骨建方完了、内外装工事中、外構工事中	R5.12
	小催事場	本体：常屋根・内装工事、プレハブ棟：内装工事、外構工事中	R5.10
テーマ館	迎賓館	本体工事：竣工→12/20引渡(予定)	R6.1
	宮田館	本体工事：竣工引渡済 展示工事中	R5.12
	※石黒館	10/17引渡完了	R5.9
	※中島館	本体工事：竣工→12/13引渡(予定)、付属工事：外構工事中	R5.10
	落合館	建設工事：膜工事中、外構工事中、B工事・展示工事中	R6.1
	福岡館	建築本体ほぼ完成、外構残、展示工事・内部造作工事中	R5.11
	河森館	12/20引渡(予定)、展示工事もほぼ終了込み	R6.1
	河瀬館	エントランス棟：外部木板張り及び内部天井下地組立。対話シアター棟：内部天井工事中。森の集会所：屋根の母屋・垂木・野地板工事中	R6.1
施設供給	電気供給施設	高圧地中幹線完了、各施設へ順次送電工事中	R5.6
	熱供給施設	熱源設備据付、配管・電気工完了、試運転実施中	R5.3
土木	基盤整備	基盤整備工事完了 (R6.10)	R4.10
	静けさの森	植樹予定本数1,500本のうち約1,300本植樹済 (1月完了予定)	R5.10

※石黒館、中島館は現物協賛 報2-23

72

報告事項 3

イベントの現況の件

イベントの現況について

報告事項① 実施予定のイベント

1. 現在の状況について

- 催事を実施する場所、時期、期間を決める第二次催事カレンダー編成を実施し、2024年4月9日にイベント情報(第1弾)として102か国・地域、4国際機関のナショナルデー、スペシャルデー開催日を公表した。その後、6月20日(第2弾)に31か国のナショナルデーを、9月3日(第3弾)には14か国のナショナルデーを追加公表した。
- 催事の内容については公式アプリ「EXPO 2025 Visitors」で適宜公表
- 内定を通知した各催事実施者から申込を受付中 (8/28〜)。

2. 公式参加者(161か国・地域、9国際機関)の状況

- 【2024年12月10日時点】
- (1) ND/SD (ナショナルデー/スペシャルデー) 168者
- (2) 公式参加者自主催事 522件

3. 公式参加者以外の状況

- 【2024年12月10日時点。申込単位】
- (1) シグネチャーイベント(テーマ事業プロデューサーが行う催事) 15件
- (2) 省庁連携催事(省庁が中心となって実施する催事) 38件
- (3) 自治体参加催事(都道府県などが中心となって実施する催事) 45件
- (4) 出展者参加催事(民間パビリオン出展者が実施する催事) 11件
- (5) 協会協力催事(協会より協力要請を受けた外部団体等が行う催事)
- 在京、在阪のメディア 25件
- 会期前から機連願成に携わっていた様々な事業者、各種団体 23件
- コンテンツホルダーは、博覧会のテーマに合致し、来場者に共感しただけ、誘客力のあるコンテンツを人選 6件
- (6) 一般参加催事(一般に公募して行う催事)
- 応募総数 790件(うち海外からの申込70件)→内定206件



報3-1

74

イベントの現況について

(参考) 現在のイベントカレンダー状況

- 現在、主要なイベント施設に関しては、平均96%強の使用率。(EXPOアリーナに少し空きあり)
- EXPOアリーナに関しては、公式参加者・一般参加催事からの受付を継続するとともに、協会協力催事などもお声がけ
- 現状、施設利用に余裕があるのは、ポップアップステージとフェスティバル・ステーションの2施設で利用率はどちらも約51%。
- 「ポップアップステージ」(5箇所×4回転×184日間 3680枠の内、残り約1700枠)
- 新しく10月より募集を開始した「フェスティバル・ステーション」に関しては、今後募集の案内を強めていく

主要イベント施設の状況	イベント開催日	設営・メンテ日	調整中	使用率
EXPOホール「シャインハット」	131日間	46日間	7日間	96.2%
EXPOナショナルデーホール「レイガーデン」	177日間	2日間	5日間	97.3%
EXPOアリーナ「Matsuri」	112日間	46日間	26日間	85.8%
EXPOメッセ「WASSE」	123日間	55.5日間	5.5日間	97.0%
ギャラリーWEST	143日間	41日間	0日間	100%
ギャラリーEAST	149日間	35日間	0日間	100%
ポップアップステージ (5箇所)	※約1900枠のイベントに内定を発出。			51.4%
フェスティバル・ステーション	92日間	2日間	90日間	51.1%

報3-2

75

イベントの現況について

報告事項② イベント情報(公式主催イベント)

◆One World, One Planet. - 世界中の願いをつないで、ひとつに。-

会場全体の音響や照明装置、プロジェクションマッピングなどが連動する壮大&壮麗なショー。未来への願いをARのシンボルに投稿することで、参加することもできます。(会期中の日没後、毎日実施予定)

◆Physical Twin Symphony - 調和する人とテクノロジーの未来-

万博の扉開けを飾るオープニングプログラムとして、まだ誰も見たことのないライブ/パフォーマンスを観客と出演者が共に体感できる世界初となるライブイベント(4月13〜20日・EXPOホール/事前予約要)

※従来「THE HUMAN ORCHESTRA」(仮称)と呼称していたイベントです。

◆万博サウナ「太陽のつぼみ」

〜大阪湾や沈む美しい太陽を眺め、人々と、人と地球の在り方を共感体験〜
太陽のエネルギーが草、草木、風の空気をまわって「太陽のつぼみ」に降り注ぐ。繊細で力強い線が創り出す空間に、自然のエネルギーが満ちていく、新しい未来型サウナ(1日5回予定・入替え制・事前予約要)

◆プロジェクションマッピング

EXPOホール「シャインハット」の壁面を舞台にプロジェクションマッピングを開催(会期中の日没後、毎日実施予定)



©太陽のつぼみプロジェクトチーム

報3-3

76

イベントの現況について

報告事項② イベント情報(参加催事)

◆公式参加者が行う国際色豊かなイベント

【インド】国際ヨガの日(6月21日・EXPOアリーナ)

【モナコ】(1) 大公統騎兵中隊オーケストラ

(2) モナコ王立グレースバレー学校

(6月28日・NDホール)

【韓国】大韓民国ナショナルデースペシャルコンサート

(5月13日・EXPOアリーナ)

◆各イベントの主催者が行うイベント

・1万人の第九 EXPO2025

(4月13日・ウォータープラザおよび大屋根リング上(南側))

・鳥人間コンテスト展 -知る 見る 触れる 人力飛行機の世界-

(7月23〜25日・EXPOメッセNorth)

・恐竜王国福井県DAY(仮)【福井県】

(7月16日・EXPOホール)

・子ども未来フェス(仮称)

(8月7日・EXPOアリーナ)

・岡山子ども未来ミュージカル「ハロルド!」

(8月12〜13日・EXPOホール)

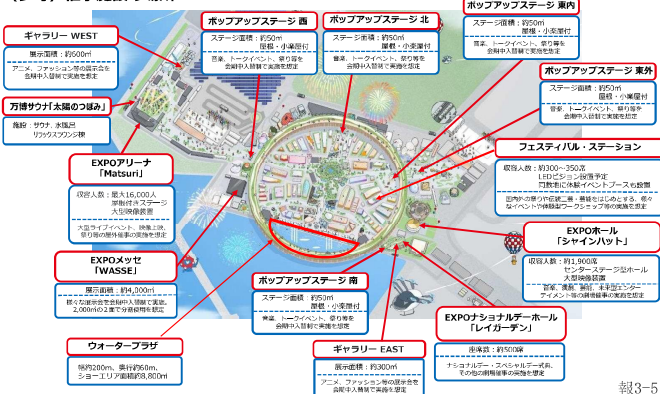


報3-4

77

イベントの現況について

(参考) 催事施設の場所



報3-5

78

報告事項 4

施設・設備等のリユースの件

- 大屋根リングを含めた施設・設備等のリユースについては、専用サイト「ミヤク市！」で事前相談を受け付けている（現在協会資産のみ26施設を登録）。
- 「ミヤク市！」の運用状況からは、シグネチャーパビリオンのうち1～3棟、若手建築家設計によるトイレ1～2棟のリユースが見込まれている（参加者パビリオン等のリユースの方向性については調査中）。
- 大屋根リングリユースについては、2024年2月のマーケットサウンディングでは、6,000m3の需要が見込まれていたものの、その後の市場環境変化等も踏まえ、引き続き需要掘り起こしに努めているところである。
- リユースのための解体工事は、部材を極力損傷させないよう丁寧に解体する必要があることから通常の解体に比べ費用と時間がかかる見込みである。これを踏まえつつも、今後のリユース促進をするためには、参加者に対する「ミヤク市！」への早期の登録の積極的な働きかけ、早期の需要の掘り起こし・各方面への働きかけが必要だと考えている。

参考



参考



報告事項 5

Figure 1: Bar chart showing the number of vehicles (台) for various bus routes. The chart is divided into two main sections: 'Main Routes' (主要幹線) and 'Other Routes' (その他). The Y-axis represents the number of vehicles, ranging from 0 to 7,000. The X-axis shows route categories: 0-3km, 3-6km, 6-9km, 9-12km, 12-15km, and 15km+. The 'Main Routes' section includes routes like 'Main Line' (主要幹線) and 'Branch Line' (支線). The 'Other Routes' section includes routes like 'Other Routes' (その他) and 'Other Routes' (その他). The chart shows that the number of vehicles increases significantly for routes longer than 9km, with the 'Main Line' route having the highest number of vehicles, reaching over 7,000 for the 9-12km category.

報5-4
87

会場内営業施設について

①全体概要：

博覧会にふさわしい多様な営業施設を企画・運営していただける営業参加事業者を募り、来場者に食事・お土産で楽しんでもいただける営業施設を展開し、参加者はSDGs達成に向けて積極的に取り組みます。この他、公式参加者等においても、パビリオン内にレストラン運営、販売も展開します。

②飲食店舗概要（約60店舗）：

多くの来場者の食事需要への対応を念頭に、多様なニーズを満たす、フードコート、ファーストフード、カフェ、高級レストラン（予約のできる個室含む）、フードトラック（キッチンカー）等を展開します。

③物販店舗概要（約20店舗）：

ミyakumaなどの公式ライセンス商品を揃えたオフィシャルストアや大阪・関西万博にふさわしい商品を展開する各種ショップ、コンビニエンスストア、ドラッグストアなどを設置します。

④サービス店舗概要：

会場内で必要な郵便局、宅配・手荷物預かり、Wi-Fi貸出などのサービス機能を確保します。

⑤その他の取組：

会場内で働くスタッフの食事需要を満たすために、従業員食堂を会場内2ヶ所に設置します。その他にも、クリーニング（取次所）の設置も予定しています。

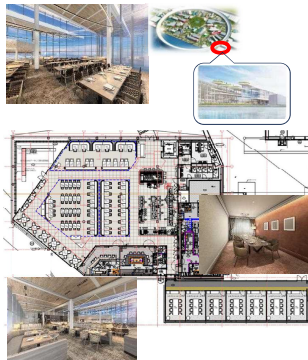
会場内営業施設について（ラウンジ&ダイニングの概要）

【ラウンジ&ダイニングの考え方】

○博覧会の独特の暗騒が離れた静かな環境の中、世界各国から訪れる賓客の接待、会食に利用できるグレードと一般来場者にも楽しんでもいただける飲食施設。
○博覧会における日本・世界の食文化の代表的シーンを、快適でエレガントな空間の中で演出。ハイレベルなサービスとともに提供する「特別な空間」。

<概要>

- ・場所：EXPOナショナルデューホール2F
- ・面積：約1,000㎡ ※諸室、バックヤード、共用部、専用トイレなど含む
- ・客席数：約280席
- ・内：レセプションルーム7室（各室8席）
- ・利用：一般来場者、協賛企業のトップ、海外賓客、国内来賓、博覧会協会・公式参加・企業参加の関係者及び接連客
- ・予約：ビューフェリア／予約なしでもご利用可能
- ・その他：エリア／事前予約制
- ※但し、レセプションルームは、協会管理の優先予約対応
- ・食事：ビューフェリア形式、コース料理（寿司・鉄板焼き）
- ・価格：ビューフェリア8,800円～、コース料理30,000円～（価格は税込み）
- ・運営事業者：コカ・コーラボタラスジャパングループ



万博会場への交通アクセス及びサービスの案内状況

●記載のとおり、万博会場への交通アクセス及びサービスの案内状況について理事会に報告する。

項目	内容
案件名称	万博会場への交通アクセス及びサービスの案内状況について
案件概要	2024年10月13日の来場日時予約開始にあわせて、交通アクセス及びサービスの案内情報について提供を開始 1. 万博パンフレット等における案内 ○電車・バスなどの公共交通機関や自家用車を利用する場合の主なアクセス方法を紹介。 2. EXPO2025 Visitorsにおける案内及びサービス ○EXPO2025 Visitorsから接続するWEBに、交通インフォメーションを設け、交通アクセス手段及びサービスについての情報を紹介。 ○交通インフォメーションから、駅シャトルバス※、万博P&R駐車場の予約システムに接続。※ 10/13時点では、桜島駅シャトルバスのみ。 3. 道の駅、高速道路SA・PAや鉄道駅における案内 ○全国の道の駅や高速道路SA・PAにおいて、P&R（パークアンドライド）駐車場の利用方法及び鉄道や駅シャトルバスの来場ルートに記載した、ポスターやサイネージを掲出するなどにより案内を実施。 ○鉄道や駅シャトルバスによる来場ルートや方法を記載したリーフレットやポスターを作成し、駅構内のラックやサイネージ、バスの車内吊り広告を用いた案内を実施。

万博会場への交通アクセス及びサービスの案内状況

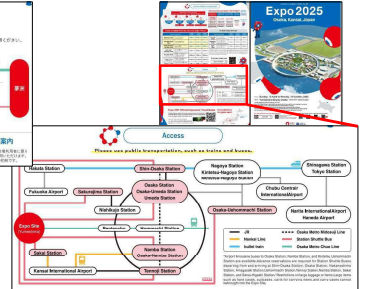
1. 万博パンフレット等における案内

・主な交通手段としては、①Osaka Metro 中央線、②駅シャトルバス（JR桜島線+桜島駅シャトルバス、ほか主要駅からの9ルート※）、③自家用車（舞洲・尼崎・堺からの万博P&R駐車場）がある。

<大阪・関西万博パンフレット（日本語版）>



<大阪・関西万博パンフレット（英語版）>



万博会場への交通アクセス及びサービスの案内状況

2. EXPO2025 Visitorsにおける案内及びサービス

○交通アクセス情報の入手方法

- ・10月13日に会場へのアクセスに関する情報をまとめたWEBサイト（EXPO 2025 交通インフォメーション）をオープンし、交通アクセスの日時予約開始
- ・WEBサイトには各交通機関の運行ルート、便数、利用の手引き、駅シャトルバスのおすすめポイントを掲載

○交通インフォメーションへの入り方（<https://www.transport.expo2025.or.jp/routes/>）

①EXPO2025 Visitorsのアプリをダウンロードし、入手



②「EXPO 2025 交通インフォメーション」が表示



万博会場への交通アクセス及びサービスの案内状況

3. 道の駅、高速道路SA・PAや鉄道駅における案内

- ・道の駅（約1,200箇所）や高速道路SA・PA（約900箇所）のサイネージに「自家用車利用者及び鉄道や駅シャトルバス利用者を対象とした案内ポスター」を掲示
- ・鉄道・バス事業者等関係約50者において、鉄道の駅構内（約500箇所）のラックやサイネージ、バスの車内吊りに案内リーフレットやポスターを掲示

<道の駅>



<高速道路SA・PA>



<鉄道駅での掲載>



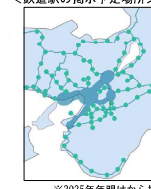
<鉄道駅での配架>



<道の駅、高速道路SA・PAのポスター掲示予定場所>



<鉄道駅の掲示予定場所>



※添付の写真はイメージ

IPM2025 の開催について

- 開催日程** 2025年1月15日、16日、兵庫県姫路市にて開催予定
- 会議の性格と目的** 全公式参加者（国・地域・国際機関）を対象とした博覧会準備会合
- 会議内容**
 - ・2日間の本会議、出展タイプ等のトピック毎の分科会を通じ、会期に向けた各種運営課題の最終討議
 - ・公式参加者による博覧会参加コンテンツの情報発信機会の提供
- 参加者（予定）** 陳列区域代表（又はそれに準ずる者）および実務責任者等
約600名の参加を予定（1ヵ国5名まで、途上国支援対象国は2名の渡航を支援）
※ 未日機を利用し、前後にワンストップショップ（於：吹洲）に参加予定



前回PM2024夏（2024年6月・奈良市）の様子



参加者代表集合写真（約160の国・機関から約600人が参加）
（2024年6月・奈良市）

IPM2025 の開催について（参考）

過去のIPM開催実績：会期までに全5回開催（4回実施済み）。うち参加招請も兼ねた「国際企画会議（International Planning Meeting）」を2回、参加表明済み（予定）の参加者を対象とした実務会合「国際参加者会議（International Participants Meeting）」を3回。

No.	会議名称	日程	参加者数	開催市	内容
1	IPM2022	2022年10月26日	100ヶ国以上から約230名	大阪市	大阪・関西万博に向けた初の企画会議
2	IPM2023春	2023年6月6日	86ヶ国・機関から約190名	大阪市	タイプB/Cでの参加検討の国・機関に向けた企画会議
3	IPM2023秋	2023年11月14日・15日	約150ヶ国・7機関から約500名	大阪市	初の参加者会議 ワンストップショップの会場併催 近隣自治体・団体と連携した関西広域の地域紹介
4	IPM2024夏	2024年6月25日・26日	約160ヶ国・機関から約600名	奈良市	初の大阪市外開催 本会にあわせ、ワンストップショップの吹洲での常設稼働開始
5	IPM2025（予定）	2025年1月15日・16日	同上の規模を想定	姫路市	会期に向けた各種運営課題の最終調整・討議

海外パビリオンの状況について

令和6年12月20日現在

基本情報

参加表明国・地域・国際機関 161か国・地域、9国際機関

単独館 67か国、3国際機関

タイプA	47か国 *全ての国が着工済み
タイプX	5か国
タイプB	15か国、3国際機関

共同館（コモンズ、国際機関館）

タイプC	94か国・地域、6国際機関
------	---------------



（参考）過去博の海外パビリオンの参加・出展状況

ドバイ：参加国192か国、モジュール館（タイプB）23か国、（タイプC）104か国
ミラノ：参加国135か国、単独館（タイプA）39か国、タイプB13か国、共同館63か国



7/11 ヨルダンパビリオン引き渡し式



10/24 チリパビリオン引き渡し式

海外パビリオンの状況について（続き）

令和6年12月20日現在

◆ タイプA以外の公式参加者もパビリオンや展示内容を発表



国際赤十字・赤新月運動（9/25発表）
（出典：<https://expo2025.irc.or.jp/>）



チュニジア（10/22発表）
（出典：BIEウェブサイト）



アルジェリア（10/22発表）
（出典：BIEウェブサイト）

◆ 協会においても、開幕に向けた公式参加者との連携・調整や支援を加速

<公式参加者との情報共有・意見交換>

- － IPM2025（来年1月15-16日@姫路市）
- － 公式参加者による運営委員会（第1回 10月25日）
- － その他、オンラインでの公式参加者向け会議も月次ペースで開催

<ワンストップショップ（OSS）による支援>

- － 本年6月、公式参加者からの各分野の相談や申請を一元的に受け付けるOSSセンターを吹洲庁舎47階に設置
- － 来年2月、万博会場（夢洲）に移転予定



暑熱対策について

「夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン2020（環境省）」を参考に、来場者に対する暑熱対策の情報提供・啓発を徹底するとともに、会場内の日陰創出・飲料水の提供等の環境を整備する。熱中症患者が発生した場合には、会場内の医療救護施設にて診療・応急手当てを実施する。

1. 情報提供・啓発

活用ツール … 協会ホームページ、場内放送、デジタルサイネージ
情報・啓発 … 熱中症警戒アラート、帽子や日傘の推奨、水分補給

2. 会場内の日陰創出等

- － 会場内におけるテント、パラソル、パーゴラ等の配置
- － ミスト、スポットエアコン等による送風・冷風の整備
- － 遮熱性舗装、植栽による地表面の高温化防止、リング下部へのシェード取り付け
- － 予約制の導入等による待ち時間の短縮

3. 給水環境の整備等

- － 店舗での飲料水・暑熱対策用品等の販売
- － 自動販売機・ウォーターサーバー等の設置

4. 医療救護対策

- － 会場内に診療所（3か所）、応急手当所（5か所）を設置
- － 診療所には、医師・看護師・救護隊が常駐
- － 応急手当所には、看護師・救護隊が常駐



参考：お弁当広場日陰け

暑熱対策について



報10-2
104

暑熱対策について

給水環境の整備

自動販売機 ● 自販機・給水機設置箇所 (▲ はリング上に設置) ● ウォーターサーバー ※うち東西エントランス広場の36台は要予約のみ ● 水飲み場 ■ 営業店舗 (飲食・物販) ■ キッチンカー	248台 55台 13台 約75店舗 24台
--	---

※現時点の内容。店舗数や数量については、今後変更の可能性あり

※上記のほか、各パビリオンでも飲料提供の可能性あり



報10-3
105

暑熱対策について

会場内の医療救護施設（診療所及び応急手当所）

【基本的な対応】⇒ 冷房の効いた医療救護施設における安静、身体冷却、水分補給
【脱水症状の進行が認められる場合】⇒ 医師による輸液（点滴）処置

【脱水症状の進行が認められる場合】⇒ 医師による輸液（点滴）処置

※ 重篤な場合には、会場内に配置された救急車により、場外の病院へ搬送



報10-4
106